



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



「田んぼの生きものたんけん」・広い田んぼとその周りに住む生き物を調べました（3ページ）

通信制高校の質確保へ・振興法改正

2024年に県教委が発表した「第三期県立高等学校再編計画」（高校再編）に関連して、本通信第77号で計画の概要をまとめました。通信78・79号では、県内での定時制・通信制の歴史や日光周辺での情報についてレポートしました。計画によると、日光市では市内の3高校が総合学科高（定員240名）に統合され、同時に宇都宮市内の通信制・定時制（定通制）はフレックス・ハイスクール（宇都宮清陵高校）に再編されます。調べていく中で、日光や鹿沼から比較的通いやすい位置（JR鶴田駅近く）にある宇高通信制が清原地区に移ってしまうことが、心配になりました。「学ぶ権利を保障する公教育の砦としての通信制」が、日光地区から遠くなってしまいます。通信制や定時制高校への通学の負担を軽減できないだろうかという要望を含め、昨年10月には「第三期県立高等学校再編計画への要望書」を県教委に送り、(1)通信制課程を今市高校に新設、(2)地域の民間団体やボランティアが支援する新たな学びの場の創造を提言しました。（通信第81号2面に掲載）

前回の通信83号には「高校生の11人にひとり通信制課程で学んでいる」という文科省発表のデータを載せました。下の図は最新の速報値が加えられた通信制生徒数の推移です。（日経新聞記事より転載）



通信制の動きが気になる中、「通信制高校の質確保に向けた改正高校定時制・通信教育振興法」が国会で審議され、7月15日に可決・成立したことを新聞記事で知りました。紙面では『通信制高校の「質の確保」、国や学校の責任明

記』（日経）、『通信制高校は不登校など「多様な生徒」を念頭に』（朝日新聞）などの見出しで取り上げられていました。「定通教育振興法」は「働きながら学ぶ青年」を前提として1953年に制定された法律です。現在の通信制生徒の実態は、この制度ができた「勤労青年の高校」の時代とは大きくかけ離れています。加えて、高校無償化の対象となっているにも関わらず一部の通信制高校で「教員数を満たしていない」、「実技施設がない」などの問題点が指摘され、今回の改定を行う動機付けとなったようです。

「通信制課程の教育課程の見直しについて（案）」が公表され、「260520-mxt_koukou01-000049785-4.pdf」で検索できます。大きな軌道修正を含む「定時制・通信制振興法」の内容は、「居場所」の子どもたちの進路にも影響することになりそうです。この「見直し案」はまだ検討中とのこと。次号でまた報告したいと思います。（手塚）

◆ 通信制高等学校情報発信サイト（文科省）

<https://www.mext.go.jp/tsushinseikoukou/>

[通信教育連携協力施設の所在地]⇒[栃木県]を選択すると76件出てきます。どんな通信制高校があるのか、興味のある方は検索してはいかがでしょうか。

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市今市316-4）

日時：毎月 第2月曜日（午前10時～12時）

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300 円（お茶代）

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。（Tel：090-3227-7079）

目次

通信制高校の質確保へ
定通制振興法改正

1

第22回 通常総会 報告

2

活動報告（5月～7月）

3

田んぼの生きものたんけん

3

こんな本はいかが・74

4

居場所のひとこま

会員さんから「AIでモデル化したデータを3Dプリンタにかけ作ってみました」と白いフィギュアをいただきました。「3Dプリンタ」は樹脂の素材を熱で溶かして積み上げ、立体物を作る装置です。今回は「PLAフィラメント」という材料でできているそうです。「さて、どうしようか」とみんなで考えました。誰かが「まず紙やすりでなめらかにしてから下塗り塗装を」。その後、小学生が色を付けてくれたのがこの写真です。（高さ15cmくらい）



第22回 通常総会 報告

5月9日(土)午後1時30分から「子どもの居場所」にてNPO法人なんとなくののわの通常総会を行いました。正会員数53名、出席正会員46名(うち表決委任者36名)により定足数を満たすことを確認しました。議事が始まり、第1号から第4号議案が、出席者一同の拍手により承認されました。

第1号議案 2025年度 事業報告

第2号議案 2025年度 収支決算報告および監査報告

第3号議案 2025年度 事業計画案

第4号議案 2025年度 活動予算案

以下は本総会で承認された2025年度事業の概要です。

(1) 居場所の提供と学びの場の運営

2025年度も平日はお盆休みや正月前後を除き、学校長期休業中の平日は居場所を開所しました。いままで同様、スタッフ2名の体制で実施しました。呼吸器感染症の予防のため、必要に応じたマスク着用、風邪の症状のチェックなど基本的な対策を行い、無事に1年を過ごすことができました。

開所日は238日、支援対象者は8名(小学生3名、中学生3名、および高校生2名でした。延べ390人(小中学生:343人、高校生以上:47人)の居場所利用がありました。相談から来所につながるケースが少なく、登録者数は前年より減少しました。今年度は「子どもの居場所」を地域に向けて知らせる機会を増やしていきたいと思います。高校へ進学した生徒への継続的な学習支援も行いました。今後も子どもたちの多様な要望に対応する仕組みづくりを進めていきます。

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した教材などの開発

「学びサポート」は希望者がなく、1年間未実施でした。同じ時間に、「なんにわ勉強会」を拡張版、誰でも自由参加の「F-Café(金曜日カフェ)」を月1回のペースで開きました。テーマを決めず、集まったメンバが話題を持ち寄る形式で続行しています。また、日光市民活動支援センターとの協力で「こどもサイエンスカフェ」を6回開催しました。このような場所から、新たな教材やカリキュラムのアイデアが生まれるのではと活動しています。

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/> を公開。定期的な更新により、居場所の紹介・開所予定、活動内容の発信を行っています。

(4) 教育についての相談や情報提供活動

不登校相談、教育についての悩み相談などに随時対応しました。相談件数は14件、訪問者は187人でした。毎月発行の日光市広報に「不登校相談」として掲載されています。大沢公民館で10月に行われた「日光ボランティア・市民活動フェスタ2025」に参加しました。通信「なんとなくのひろば」を3か月間隔で4回発行、各号250部印刷し、会員および日光市内の小中学校に配布しました。

(5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の自立に関する相談および就労を支援する活動

「ひきこもり相談センター・かがやき」などの地域支援団体との連携を取りました。

(6) 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

「今市の水を守る市民の会」との共催行事、「田んぼの生きものたんけん」を5月に鹿沼市板荷、「川むしたんけん」を9月に長畑(西沢川)で実施しました。

環境測定班が土壌や食品に含まれる放射性セシウムを測定するため、測定器を導入してから12年になります。冷蔵庫の故障や、外部放射線を遮蔽する100kgの鉛ブロックを含む設置場所の変更など昨年度は課題がありましたが、やっと装置が安定して動く状態になりました。放射能測定に興味のある方、測定希望の方はご連絡ください。

(7) 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

「茶話会」は毎月第2月曜日、午前10時からお昼まで「子どもの居場所」で開きました。気軽な雰囲気が集まり、子育ての悩みを話し合う時間となっています。以前、「子どもの居場所」に関わった保護者さんがワンコインマッサージで来所し、参加者・スタッフを癒しています。

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

[さくらそう(特定指定相談支援)]

さくらそうは2014年5月から計画相談を開始し、まる12年が経とうとしています。2025年度は相談員1名で延べ140件の計画作成・モニタリング、12件の担当者会議等を実施しました。今年度はご本人の高齢の親の介護について地域包括支援センターと関わることやご本人の日常生活自立支援事業(あすてらす)との調整が複数回ありました。担当人数は、新規1名増、担当終了は亡くなった方2名・サービス利用終了4名・相談員交代1名・進学や一般就労に進まれた方4名で合計11名となりました。印象に残った事は、放課後等デイサービス(高校在学まで利用可)を利用していた方で計画の目標である「自分で考え、自分で決めて行動し、責任をとれるようになる」がなかなかできなかったのですが、受験や進学準備のプロセスの中で自分ごととして行動できるようになり、大学に合格されたことです。改めて、成長する時期は一樣では無いと感じました。今後もご本人の希望が叶えられるよう支援をしていきたいと思っています。

[委託相談(日光市社会福祉課への出向)]

2025年度は、担当している障がい者が4月1日出産から始まり、11月には別の障がい者の方が亡くなるという、生と死を身近に感じた1年でした。相談件数も前年度、2,676件が今年度には3,354件と増えました。忙しいのを理由にはできませんが、3月末に風邪をこじらせ2週間も咳が続いてしまいました。2026年度は、身体に気を付けて頑張ろうと思います。

より詳しい活動報告・決算資料はホームページに掲載しています。

なんにわページより、[財務諸表]をご覧ください。

5月 9日(土) 第22回 通常総会(会場:子どもの居場所)
 5月13日(水) 前事業年度の事業報告書を提出(地域振興課)
 5月24日(日) ベリー会(グループ相談会)
 5月26日(火) 鹿沼税務署にて確定申告書作成・提出
 5月27日(水) 鹿沼県税事務所にて県税額納付書作成
 5月30日(土) 田んぼの生きものたんけん
 6月 8日(月) 茶話会(第153回)
 6月21日(日) こどもサイエンスカフェ(2026#1) 折り紙 ⇒
 6月28日(日) ベリー会(学習講演会)
 7月 7日(火) 第132回 理事会



さくらそう関連

日光市相談支援専門員連絡会

4月22日(水) 第1回 日光市相談支援専門員連絡会 前年度振り返り・今年度計画
 5月27日(水) 第2回 日光市相談支援専門員連絡会 就労選択支援報告
 6月24日(水) 第3回 日光市相談支援専門員連絡会 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会振り返り、
 新相談支援事業者・新事業者紹介

日光市障がい者自立支援協議会

4月 9日(木) 第1回 ケース・事例検討会議 ～伝達研修～栃木県基幹相談支援センタースキルアップ研修を受講して～
 5月14日(木) 第2回 ケース・事例検討会議
 ～スーパービジョンを意識したGSV～小山市障がい者基幹相談支援センター柴田将紀様より～
 7月 9日(木) 第3回 ケース・事例検討会議 GSV司会担当

県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会

6月12日(金) 第1回 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会 できることから始める工夫とAI活用
 6月29日(月) 相談支援実務者会議 前年度活動内容振り返り・本年度活動の取り組みについて

田んぼの生きものたんけん

5月30日(土曜日) 午前9時半～
 今市の水を守る市民の会と共同開催

無農薬・有機栽培による米づくりを実践されている潮田さんの協力により、今年も実施しました。今回と同じ5月最後の土曜日に準備した昨年は数日前から「荒天」の予報でした。実施時刻に雨が上がり開催できましたが、お天気を心配しながらの「たんけん」でした。今回は雲ひとつない青空。集まった大人と子どもたちそれぞれに、9時半から田植え前の田んぼに入りました。

田んぼとその周辺を1時間ほど歩いたり、網ですくったり。つかまえた生きものをトレイに入れ、種類ごとに集めて観察しました。見つかった生きものは次のとおりです。

- ◆ カエル: ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、
シュレーゲルアオガエル、その他: オタマジャクシ多数
- ◆ 昆虫: タガメ、ゲンゴロウ、コオイムシ、
トンボの成虫[アカネ類、イトトンボ類]
- ◆ その他: ミミズ、ヒル



など、多くの種類が見つかり、健全な、生きものにやさしい田んぼということがわかりました。

体長6cmくらいの大きなタガメが見つかりました。タガメはカメムシの仲間。現在は環境省レッドリストで「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」となっているそうです。これから繁殖の時期をむかえようという成虫です。子どもたちの観察のため、プラケースの中でしばらく我慢してもらい、解散後、田んぼ脇の草むらに戻してから「あ、写真を」と慌てて撮影したのが左の写真。タガメの寿命は約1年だそうです。無事パートナーと出会い、命をつなぐことができますように。

今回は4月末から準備し、「小中学校へのWEBチラシ配布」にも早めに掲載したのですが、情報が広がらず参加者が少なかったのは残念でした。広報にも力を入れ、来年5月、また潮田さんのご協力を得て「田んぼの…」を実施したいと思います。(手塚、資料: 塚崎[今市の水を守る市民の会])

なんとなくのひろば

〒321-1261 栃木県日光市今市 316-4

電話 090-3227-7079

email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その 74

「ユマニチュード」に関する書籍

今回は「ユマニチュード」に関する書籍を紹介します。ユマニチュードとは「人間らしさを取り戻す」という意味のフランス語の造語で、フランス人のイヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティが考案したケアの技法です。

私はカンヌ国際映画祭で話題になった、映画「急に具合が悪くなる」を観てきました。この中で、浜口竜介監督はユマニチュードという介護の技法を一つのテーマにしました。もちろんメインのテーマは、二人の女性の「魂のやりとり」であります。その舞台として高齢者施設を選びました。浜口監督が常々問題意識として持っていることがユマニチュードの考え方「よいケアは自由な二人の出会いそのもの」と響きあっているのです。浜口監督の言葉「(現代は) 人に関心を寄せるための時間と余裕が奪われている。介護だけではなく、おそらくどのような業界においても、私はその通りだなあと感じます。

◎「家族のためのユマニチュード」 “その人らしさ”を取り戻す優しい認知症ケア

著：イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ、本田美和子

2018年 誠文堂新光社

この本の中には、ユマニチュードの4つの柱「見る」「話す」「触れる」「立つ」と「ケア」の5つのステップが丁寧に説明されています。私は10年ほど前にテレビで取り上げられていた映像を見えています。イヴ・ジネストさんが日本の認知症高齢女性のケアをしている姿が映されていました。言葉は通じていないのに、その女性の表情が次第に柔らかくなっていく姿が印象的でした。介護で大切な2つのことは「相手とよい関係を結ぶ」とことと「その人が持っている力を奪わない」とことだと書いてありました。図書館に置いてあります。是非ご一読ください。その他に

◎「ユマニチュード」という革命 なぜ、このケアで認知症高齢者と心が通うのか

著：イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ 誠文堂新光社

◎「絆」を築くケア技法 ユマニチュード 人のケアから関係性のケアへ

著：大島寿美子 監修：イヴ・ジネスト、本田美和子 2019年

(白井)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：52

賛助会員：7

団体会員：3

年会費(一口)

正会員 3,000円

賛助会員

個人 5,000円、団体 10,000円

本会への応援をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営に直接かかわることができます。積極的な参加をお願いします。



なんとなくのへや

30年前の朝日新聞「文芸時評」の切り抜きを机の奥で見つけた。B5判のノートに挟まれた新聞紙はすっかり黄色くなっていた。フランス文学・映画評論・文芸評論などで広く活躍し今もご存命の蓮實重彦氏が1996年頃ベストセラーだった『ソフィーの世界』を批評していた。蓮實氏の著書を読んだことはないが『ソフィー』への批判が気に入り取り置いたのだらう■この「哲学ファンタジー」の内容についてはNHK出版のホームページにあるので省略し、少し長いが蓮實氏の批判から引用する。「彼らの戦略は、むしろ容易さを説くことにある。むづかしいことなど何もないのだから、生きることと歴史の意味についてみんな考えてみよう、だれにもわかる言葉遣いで微笑とともに提案しているのである。だが、ほとんどの場合、それは偽装された命令にほかならず、思考の道筋もあらかじめ決められている。そこには、思考など始動するはずもなく、すべては一般性の領域で安易なイメージに置き換えられてしまう…」。「かんがえる」営みは人と人との間で行われる行為なのに、考えることへの誘惑を装った悪質な命令の書物 = 『ソフィー』がそれを覆い隠し誘導していると蓮實氏は断じている■20世紀末の哲学ブームのなかで『ソフィー』は評判になった。読んでみたが、何の印象も残らなかった。分厚い本で家の本棚にしばらく鎮座し、いつの間になくなった。新聞の評論が残っていたのはほんの偶然である。蓮實氏の『ソフィー』批判に込められた「知識の民主化を装った大がかりな思考の破壊工作」の意味をあれこれかんがえているうちに、あっ、これって、つい最近ネット上に出現した「AIさん」のやっていることではないかと思った■ためしに「自分はどこからきてどこに行くのか」とAIに聞いてみるとよい。おそらく世界中の誰もが同じような答えをAIから受け取り、「では、あなたの人生を考えてみましょう」みたいな場所に誘導されてしまう。やっかいな時代になったものである。(T)